

科目	文章理解	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
目 標	小説やエッセイ等を読み、文学作品に対して親しみを持ち理解を深める。							
内 容								
1	文章理解① ガイダンス、授業の進め方等講義のオリエンテーション							
2	文章理解② 日本の古典を学ぶ							
3	文章理解③ 随筆、エッセイを学ぶ							
4	文章理解④ 戦争と文学							
5	文章理解⑤ シナリオ本を読む(1)							
6	文章理解⑥ シナリオ本を読む(2)							
7	文章理解⑦ 医療、福祉の文学							
8	文章理解⑧ 女性誌の歴史							
9	文章理解⑨ 紀行誌、冒険記							
10	文章理解⑩ 遺書、絶筆							
11	文章理解⑪ 純文学							
12	文章理解⑫ 和歌、短歌、都都逸、俳句等について学ぶ							
13	文章理解⑬ 百人書評							
14	文章理解⑭ 海外文学							
15	文章理解⑮ これまでの振り返り。試験についての説明							
16	定期試験 定期試験の実施							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに対し期末試験を行う。 課題の提出を粗点として加算し、更に期末考査試験を行い60点以上を合格とし単位を認める。 再試験・追試験を行うことがある。								
教 材								
特に指定しない。授業で使用するレジュメ、資料等は教員側で用意する。								
					担当講師	軍司 裕吾		

科目	文章実務	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 時間 数)	32 (2)
目標	文章の基礎的な書き方、及びその実用方法について考える。座学だけではなく、実際の実演を通して、文章の構成や原稿としての読み方を自ら行い、実生活で役立たせることを目標とする。							
内 容								
1	文章理解① ガイダンス、授業の進め方等講義のオリエンテーション							
2	文章理解② 履歴書、添え状、経歴証明書の書き方							
3	文章理解③ レポート、論文の書き方							
4	文章理解④ 傾聴に対するワーク							
5	文章理解⑤ 図書館利用方法、資料の探し方							
6	文章理解⑥ イベント、社内報で使用する文言の執筆方法(1)							
7	文章理解⑦ イベント、社内報で使用する文言の執筆方法(2)							
8	文章理解⑧ プレゼンテーション、発表、報告の技法(1)							
9	文章理解⑨ プレゼンテーション、発表、報告の技法(2)							
10	文章理解⑩ 「手紙」について考える							
11	文章理解⑪ 「書評」の書き方							
12	文章理解⑫ 「書評」についての発表							
13	文章理解⑬ 図書館見学実習							
14	文章理解⑭ 資料批判、第一次資料とは							
15	文章理解⑮ これまでの振り返り、試験についての説明							
16	定期試験 定期試験の実施							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに対し期末試験を行う。 課題の提出を粗点として加算し、更に期末考査試験を行い60点以上を合格とし単位を認める。 再試験・追試験を行うことがある。								
教 材								
特に指定しない。授業で使用するレジュメ、資料等は教員側で用意する。								
						担当講師	軍司 裕吾	

科目	政治経済学		必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
目標	直近のニュースソースである世界と日本の政治と経済の時事に関する問題について、その背景にある論理や構造を読み解き、時代や社会から求められているニーズを把握できる人材の養成を目指す。								
内 容									
1	オリエンテーション	授業の進め方							
2	ロシアのウクライナ侵攻	21世紀の戦争							
3	NATO (北大西洋条約機構)	ウクライナ侵攻後のスタンス							
4	核拡散防止条約再検討会議	進まない核保有国の軍縮							
5	沖縄返還50周年	辺野古基地新設問題							
6	一票の格差	住む場所によって異なる一票の価値							
7	FTAとEPA	変わる太平洋経済圏							
8	円高と円安	株価と円の価値							
9	実質賃金	30年間増えない給料							
10	国債	国にお金を貸すのは誰？							
11	日本の景気2022	日本経済の現在地							
12	日銀の金融緩和政策	異次元緩和の出口							
13	前期総まとめ その1	前期総まとめ その1							
14	前期総まとめ その2	前期総まとめ その2							
15	前期試験	前期試験							
16	前期試験講評	前期試験講評							
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。									
教 材									
「2023→2024 図解 まるわかり時事用語」 (ニュース・リテラシー研究所編 新星出版社)									
						担当講師	太田 敦		

科目	現代社会（コミュニケーション）	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	（単位数） 時間数	32（2）	
目標	現在進行形で起きている事実を題材として、現代の社会を生き抜くうえで必要な知識を学び、自ら考え出したアイデアを実践できる行動力を持つ人材の養成を目指す。								
内 容									
1	オリエンテーション	授業の進め方							
2	成人年齢の引き下げ	18歳から大人？							
3	日本の人口問題	少子高齢化問題							
4	地球温暖化	CO2排出ゼロへの道							
5	再生可能エネルギー	エネルギー新時代							
6	マイナンバーカード	個人情報と身分証明							
7	男女の格差	先進国で最も遅れる日本の男女平等							
8	選択的夫婦別姓	希望すれば夫婦が別の名前を名乗れる？							
9	日本の年金制度	老後の資金は大丈夫？							
10	子供の貧困	こどもの7.4人が貧困？							
11	AI（人工知能）	ディープラーニングとは？							
12	ブロックチェーン	集中管理から分散自立型管理へ							
13	後期総まとめ その1	後期総まとめ その1							
14	後期総まとめ その2	後期総まとめ その2							
15	後期試験	後期試験							
16	後期試験講評	後期試験講評							
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。									
教 材									
「2023→2024 図解 まるわかり時事用語」（ニュース・リテラシー研究所編 新星出版社） 「最新図説 政経」（浜島書店） その他配布資料、資料動画等									
					担当講師	太田 敦			

科目	生物学			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 時間 数)	32 (2)
目 標	人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物(旧課程：生物Ⅰ・生物Ⅱ)」の内容の特に人体に関する事項に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。									
内 容										
1	イントロダクション	生物に必要な基本の用語・単位								
2	第1章	細胞のしくみ								
3	第2章	細胞のはたらき								
4	〃	遺伝のしくみ								
5	第3章	刺激の伝達の仕組み								
6	第4章	視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚								
7	第5章	体液の恒常性								
8	〃	生体防御のしくみ								
9	〃	循環器系のしくみ								
10	〃	呼吸器系のしくみ								
11	〃	排泄や吸収のしくみ								
12	〃	内分泌系のしくみ								
13	〃	生殖器系のしくみ								
14	〃	体温のしくみ								
15	〃	神経のしくみ								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
看護に必要な やりなおし生物化学 照林社										
					担当講師	會田 夏希				

科目	保健体育	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	32 (2)
目標	健康に対する幅広い知識と生涯にわたる応用力を養う。講義形式を主体とし、加えて健康増進や各種スポーツの楽しい実践指導を行う。							
内 容								
1	オリエンテーション及び体力づくり							
2	P1～10 心身の発達の特性と運動、体力づくり							
3	P11～26 文化としてのスポーツ、体力づくり							
4	P27～38 健康・体力のための運動 体力づくり							
5	P40～57 運動の科学 (生理学) ヨガ							
6	P58～70 運動の科学 (力学) ヨガ							
7	P71～84 運動の科学 (心理学) ヨガ							
8	P85～103 運動の種類、技術の構造 ヨガ							
9	P104～111 各種スポーツ練習法 ヨガ							
10	P182～187 運動の練習と安全対策 ヨガ							
11	P188～202 スポーツ事故・救急処置 球技							
12	P203～245 社会と体育体 球技							
13	P246～263 性とスポーツ 球技							
14	P264～280 栄養と健康							
15	単位認定試験							
16	試験返却、効果判定							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布プリント、バインダーセット								
					担当講師	駒崎秀雄		

科目	英語	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時間 数	32 (2)
目 標	患者とのやり取りは大きく2つのタイプに分けられる。一つは患者への質問、もう一つは患者に指示や説明をすることである。日本在住の外国人が急増している今、医療スタッフにとって外国人患者との意思の疎通を図れることは重要な責務の一つになっている。ここでは中学英語の基礎を復習した後、医療英語や医療英単語、簡単な会話のやり取りなどを学習していく。							
内 容								
1	イントロダクション							
2	英文法総復習①							
3	英文法総復習②							
4	英文法総復習③							
5	英文法総復習④							
6	英文法総復習⑤							
7	英文法総復習⑥							
8	医療英語の成り立ち							
9	英会話表現㉓							
10	英会話表現㉓							
11	英会話表現㉓							
12	英会話表現④							
13	英会話表現⑤							
14	英会話表現⑥							
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 医道の日本社								
						担当講師	會田 夏希	

科目	運動学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	(単位数) 時間数	32 (2)
目標	<p>人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。          人体の基本単位である細胞および組織の形状・名称・機能を学び、全身の骨形状・名称や機能を学ぶ。</p>							
内 容								
1	解剖学概要説明、細胞、組織学							
2	細胞							
3	組織学							
4	組織学、解剖学的身体指標							
5	骨学概論							
6	体幹部（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）							
7	体幹部（胸骨、肋骨）							
8	上肢部（肩甲骨、鎖骨）							
9	上肢部（上腕骨、橈骨、尺骨）							
10	上肢部（手根骨、指骨）							
11	下肢部（寛骨）							
12	下肢部（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）							
13	下肢部（足根骨、趾骨）							
14	頭部（頭蓋骨）							
15	頭部（頭蓋骨）							
16	定期試験							
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う          60点以上を合格とし、単位を認める          再試験・追試験を行うことがある</p>								
教 材								
解剖学 医歯薬出版株式会社								
					担当講師	羽原弦史		



科目	解剖学 I	必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
目 標	<p>人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。          人体の基本単位である細胞および組織の形状・名称・機能を学び、筋の形状・名称や機能を学ぶ。</p>							
内 容								
1	筋学概論							
2	上肢部（上肢帯周囲）							
3	上肢部（上腕部）							
4	上肢部（前腕部）							
5	上肢部（手部）							
6	下肢部（下肢帯周囲）							
7	下肢部（大腿部）							
8	下肢部（下腿部）							
9	下肢部（足部）							
10	体幹部（背部）							
11	体幹部（胸部・腹部）							
12	頭頸部（顔面部）							
13	頭頸部（後頸部）							
14	頭頸部（前頸部）							
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う          60点以上を合格とし、単位を認める          再試験・追試験を行うことがある</p>								
教 材								
解剖学 医歯薬出版株式会社								
					担当講師	羽原弦史		

科目	生理学 I			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時間 数	64 (4)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	医学の基礎を構成する生理学では人体の機能と生命現象について学びます。人体を構成する最小構成要素である、細胞の基本構造と機能について学び、細胞によって諸臓器が構成され、その諸器官の機能とそれらを支配する神経系(自律神経)の働きについて生理学 I で学びます。									
内 容										
1	生理学の基礎	生理機能、細胞の構造と機能	17	筋	骨格筋の構造と働き					
2	〃	物質代謝、体液の組成と働き	18	〃	筋収縮・エネルギー供給の仕組み					
3	〃	物質移動	19	〃	心筋と平滑筋					
4	神経	ニューロンの構造と働き	20	運動	骨格筋の神経支配、運動調節					
5	〃	神経線維の興奮の伝導	21	〃	運動調節					
6	〃	シナプス伝達	22	〃	錐体路・錐体外路、発語					
7	〃	中枢神経系の分類と機能	23	感覚	感覚分類、一般的性質					
8	〃	反射と脊髄	24	〃	体性感覚、内臓感覚					
9	〃	脊髄	25	〃	痛覚					
10	〃	脳幹、小脳、視床	26	〃	味覚・嗅覚、聴覚					
11	〃	視床下部、大脳	27	〃	平衡感覚、視覚					
12	〃	脳脊髄液、末梢神経系	28	生体の防御機構	生体防御、免疫反応					
13	〃	自律神経系	29	身体活動の協調	生体の適応、恒常性の維持					
14	〃	〃	30	〃	バイオリズム					
15	定期試験		31	定期試験						
16	総括		32	総括						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社 プリント										
				担当講師	内田舜					

科目	はりきゅう理論 I		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	(単位 時間 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目標	はりきゅう理論全般では東洋医学的な立場を尊重しつつ現代医学的な考察を中心とする。理論を正しく理解することは患者クライアントのニーズを満たすことの近道であるし、また医療過誤が起きてしまったさいに自分やその従業員を守ることに必要なことである。本科目では実務的な経験から特に患者、クライアントへの「説明と同意」、同時にリスク管理の観点からも具体例を挙げながら講義する。								
内 容									
1	鍼の基礎知識	豪鍼とは							
2	〃	古代九鍼と現代的解釈							
3	基本的な穿刺	刺鍼の基本操作（術式）							
4	〃	基本17手技と関係法規							
5	特殊鍼法	小児鍼の種類と手技							
6	〃	皮内鍼と円皮鍼の製品について							
7	〃	灸頭鍼とリスク							
8	〃	耳鍼療法の効果とリスク							
9	〃	頭鍼療法の概要と効果、リスク							
10	〃	吸角療法と注意							
11	〃	はり、きゅうの刺激量							
12	〃	生体の感受性とOD							
13	〃	鍼治療の適応と禁忌							
14	灸術の基礎知識	材料と刺激量、感受性と効果							
15	灸術の臨床応要	灸療法の医療過誤と副作用							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
はりきゅう理論 医道の日本社									
						担当講師	増田知行		

科目	はりきゅう理論Ⅱ		必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
<b>【実務経験のある教員等による授業科目】</b>									
目標	<p>最近では「エビデンス」という言葉だけが独り歩きしているように思えるが、医療においてはサイエンスとエビデンスは類似している。すなわちレシピ通り物事を施行することができたなら目的とする結果の再現性の確立は一定に保つことができるということである。とくに鍼灸臨床は前時代的な「やった」「効いた」「治った」などが重要視されているがそれよりも「何をどのくらい施行したのか」「効果をスケールで計測するとはどのようなことなのか」「症状寛解とは具体的にどこに」「ということを検証し、臨床を重ねてゆく必要がある。本科目では実務的な視線で客観的に臨床所見を判断することのできる鍼灸師を育成することを目的としている。</p>								
内 容									
1	鍼灸治効	運動・内臓系の調節							
2	〃	感覚の中枢内伝道路							
3	〃	鍼刺激と反射							
4	〃	鍼鎮痛とは							
5	〃	血流改善のメカニズム							
6	〃	運動反射のメカニズム							
7	〃	消化器に対するメカニズム							
8	〃	鍼灸とリラクゼーション							
9	〃	生体防御機構							
10	〃	ポリモーダル受容器							
11	臨床の接点	経穴と刺激							
12	〃	筋緊張緩和のメカニズム							
13	〃	鍼灸刺激の治効機序							
14	リスク管理	感染症対策							
15	〃	生体の感受性、リスク管理							
16	定期試験								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
はりきゅう理論 医道の日本社									
						担当講師	増田知行		

科目	東洋医学概論			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	64 (4)
目標	東洋医学の基本的な考え方・特徴・思想を理解する、また、西洋医学との違いを理解し、臨床で生かせるようにする。									
内 容										
1	第1章	東洋医学の特徴	17	第4章	四診					
2	第1節	東洋医学の沿革・歴史	18	第1節	神について					
3	〃	東洋医学の成立と発展	19	〃	色 形 態					
4	〃	東洋医学の歴史と日中交流	20	〃	舌診					
5	第2節	人体 人と自然の統一性	21	第2節	声診 呼吸等					
6	〃	虚実と標本	22	第3節	問診 問診の進め方 (主訴)					
7	第3節	東洋医学的治療	23	〃	基本的問診事項 (寒熱等)					
8	〃	治療法	24	〃	その他の問診事項					
9	第4節	日本の東洋医学の現状	25	〃	身体各部の症状					
10	〃	東西両医学の違い	26	第4節	切診					
11	〃	東洋医学的な視点	27	〃	反応					
12	〃	日本伝統鍼灸の特徴と中医学	28	〃	腹診					
13	第3章	東洋医学の思想 陰陽学説	29	〃	切経・経穴診					
14	〃	人体の五行	30	〃	脈診					
15	〃	飲食物の五行	31	〃	四診合参					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
新版東洋医学概論 医道の日本社										
					担当講師	増田知行				

科目	病態生理学		必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
目 標	運動学、生理学を踏まえて、基礎医学の観点から人体の基本病変の特徴を学び、人体の基本的な病変のメカニズムの知識を得る。								
内 容									
1	病態生理学①	疾病の基本的考え方							
2	病態生理学②	疾病の基本的考え方							
3	病態生理学③	疾病の基本的考え方							
4	病態生理学④	疾病の基本的考え方							
5	病態生理学⑤	疾病の基本的考え方							
6	病態生理学⑥	各疾患の生理学的考え方							
7	病態生理学⑦	各疾患の生理学的考え方							
8	病態生理学⑧	各疾患の生理学的考え方							
9	病態生理学⑨	各疾患の生理学的考え方							
10	病態生理学⑩	各疾患の生理学的考え方							
11	病態生理学⑪	外傷と病態生理							
12	病態生理学⑫	外傷と病態生理							
13	病態生理学⑬	外傷と病態生理							
14	病態生理学⑭	外傷と病態生理							
15	効果判定								
16	総括								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
						担当講師	内田舜		

科目	生体観察学			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単位 数) 時間 数	32 (2)
目標	頭頸部・体幹・上肢筋・骨盤・下肢筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。また、鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。									
内 容										
1	生体観察学①	生体観察の意義								
2	生体観察学②	体幹部（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）								
3	生体観察学③	体幹部（胸骨、肋骨）								
4	生体観察学④	上肢部（肩甲骨、鎖骨）								
5	生体観察学⑤	上肢部（上肢帯周囲）								
6	生体観察学⑥	上肢部（上腕骨、橈骨、尺骨）								
7	生体観察学⑦	上肢部（手根骨）								
8	生体観察学⑧	上肢の復習								
9	生体観察学⑨	下肢部（寛骨）								
10	生体観察学⑩	下肢部（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）								
11	生体観察学⑪	下肢部（下肢帯周囲）								
12	生体観察学⑫	下肢の復習								
13	生体観察学⑬	頭部								
14	生体観察学⑭	顔面部								
15	効果判定									
16	総括									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
					担当講師	内田舜				

科目	はりきゅう実技基礎			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	(単位 数) 時間 数	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目標	施術所での臨床経験を活かして消毒や医療過誤について施術所でおこりうる具体例をあげ、安全な刺鍼法を教育する。消毒や医療過誤について理解し、安全な刺鍼法を身に付ける。 片手挿管が出来る。 安全・衛生面に配慮しながら、基本的な鍼の打ち方、押手の三圧が出来るようになる。 骨度法を理解し、ヒトの体のランドマークを目標に取穴を行い、正確に刺鍼することが出来る。									
内 容										
1	オリエンテーション	実技室の使い方、道具の確認	17	取穴法と刺鍼法	足の陽明胃経					
2	基礎知識	手洗い方法・消毒への理解	18	〃	足の太陰脾経					
3	〃	鍼の基礎知識	19	〃	手の陽明大腸経					
4	基礎技術	挿管方法（両手挿管・片手挿管）	20	〃	手の太陰肺経					
5	〃	押手と前柔撚、後柔撚	21	〃	足の少陰腎経					
6	〃	練習台を使って刺鍼練習	22	〃	足の太陽膀胱経					
7	〃	送り込み、捻鍼	23	〃	手の太陽小腸経					
8	〃	直刺・斜刺・横刺	24	〃	手の少陰心経					
9	〃	単刺での連続刺鍼	25	〃	足の厥陰肝経					
10	〃	目的の深さまでの刺鍼	26	〃	足の少陽胆経					
11	〃	自身の下腿への刺鍼	27	〃	手の厥陰心包経					
12	〃	〃	28	〃	手の少陽三焦経					
13	〃	相対での下腿への刺鍼	29	〃	腰背部の取穴					
14	〃	〃	30	〃	頸部の取穴					
15	効果判定試験		31	効果判定試験						
16	総括		32	総括						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
はりきゅう実技（基礎編） 医道の日本社 配布資料										
					担当講師	内田舜				



科目	はりきゅう応用実技 I			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	(単位 数) 時間 数	64 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	はき応用実技 I は鍼の基礎技術と知識を習得し、施術を安全かつ確実に行える基本的な能力を身につける。										
内 容											
1	ガイダンス	17	背部への刺鍼（交叉刺）	2	挿管法（両手挿管）刺鍼練習	18	背部への刺鍼（交叉刺）	3	挿管法（片手挿管）透熱灸	19	背部への刺鍼（交叉刺）
4	挿管法（片手挿管）管鍼法、透熱灸	20	背部への刺鍼（交叉刺）	5	刺鍼手順透熱灸	21	肩背部への刺鍼	6	自分の下腿への刺鍼	22	肩背部への刺鍼
7	自分の下腿への刺鍼透熱灸	23	頸部への刺鍼	8	下腿への刺鍼（直刺）	24	頸部への刺鍼	9	下腿への刺鍼（直刺）	25	上肢への刺鍼透熱灸
10	下腿への刺鍼（斜刺）	26	頭・顔面部への刺鍼	11	下腿への刺鍼（斜刺）透熱灸	27	頭・顔面部への刺鍼	12	腰殿部への刺鍼	28	透熱灸
13	腰殿部への刺鍼	29	全身への刺鍼	14	腰殿部への刺鍼	30	試験前練習	15	単位認定試験（前期）	31	単位認定試験（後期）
16	総括	32	総括								
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
はりきゅう実技基礎編（東洋療法学校協会編）											
						担当講師	島田光朗				

科目	はりきゅう治療実技 I			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	(単位 数) 時間 数	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目標	施術所での臨床経験を活かして消毒や医療過誤について術所でおこりうる具体例をあげ、安全な刺鍼法を教育する。消毒や医療過誤について理解し、安全な刺鍼法を身に付ける。 片手挿管が出来る。 安全・衛生面に配慮しながら、基本的な鍼の打ち方、押手の三圧が出来るようになる。 骨度法を理解し、ヒトの体のランドマークを目標に取穴を行い、正確に刺鍼することが出来る。									
内 容										
1	オリエンテーション	実技室の使い方、道具の確認	17	取穴法と刺鍼法	足の陽明胃経					
2	基礎知識	手洗い方法・消毒への理解	18	〃	足の太陰脾経					
3	〃	鍼の基礎知識	19	〃	手の陽明大腸経					
4	基礎技術	挿管方法（両手挿管・片手挿管）	20	〃	手の太陰肺経					
5	〃	押手と前柔撚、後柔撚	21	〃	足の少陰腎経					
6	〃	練習台を使って刺鍼練習	22	〃	足の太陽膀胱経					
7	〃	送り込み、捻鍼	23	〃	手の太陽小腸経					
8	〃	直刺・斜刺・横刺	24	〃	手の少陰心経					
9	〃	単刺での連続刺鍼	25	〃	足の厥陰肝経					
10	〃	目的の深さまでの刺鍼	26	〃	足の少陽胆経					
11	〃	自身の下腿への刺鍼	27	〃	手の厥陰心包経					
12	〃	〃	28	〃	手の少陽三焦経					
13	〃	相対での下腿への刺鍼	29	〃	腰背部の取穴					
14	〃	〃	30	〃	頸部の取穴					
15	効果判定試験		31	効果判定試験						
16	総括		32	総括						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
はりきゅう実技（基礎編） 医道の日本社 配布資料										
					担当講師	内田舜				

科目	臨床実習基礎		必修	履修 学年	1	授業 の 方法	実習	(単位 数) 時間 数	46 (1)	
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	鍼灸整骨院での勤務経験から実習室で規則・規律を守り行動することの徹底した教育を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみを整え、適切な挨拶、言葉遣いを行う。</li> <li>・問診から必要な情報を収集し整理する。</li> <li>・疾患、病態から必要な検査測定項目を列挙し計画できる。</li> <li>・対象者とのコミュニケーションの中から情報収集を行うことを確実に実行に移すことのできる教育を行う。</li> </ul>									
内 容										
1	実習基礎	実習室の使い方								
2	〃	タオルワーク								
3	〃	ワゴンワーク								
4	問診	問診上の注意点								
5	〃	問診の基礎								
6	〃	〃								
7	〃	オープクエスチョン								
8	〃	クローズドクエスチョン								
9	〃	問診まとめ								
10	触察	頸部 (筋・骨)								
11	〃	頸部 (筋・骨)								
12	〃	胸背部 (筋・骨)								
13	〃	〃								
14	〃	〃								
15	〃	腰部 (筋・骨)								
16	実技試験									
17	触察	下肢 (大腿)								
18	〃	〃								
19	〃	下肢 (膝)								
20	〃	下肢 (下腿)								
21	〃	下肢 (足関節)								
22	総括									
23	効果判定									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料										
						担当講師	荻野 修平			

科目	実践東洋医学臨床論			必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	(単 位 数) 時 間 数	64 (4)
目 標	鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、十四経脈の体表および体内流注と所属の経穴の名称および部位について学習する。経絡経穴概論で学習する内容は、理解はもちろんのこと、知識としての定着が重要となるので、単位認定試験の他に小テストを随時行う。									
内 容										
1	ガイダンス、経穴の概要（骨度法）	17	手の太陽小腸経（2）							
2	解剖学的肢位と方向/督脈（1）	18	足の太陽膀胱経（1）							
3	督脈（2）	19	足の太陽膀胱経（2）							
4	任脈（1）	20	足の太陽膀胱経（3）							
5	任脈（2）	21	足の少陰腎経（1）							
6	手の太陰肺経	22	足の少陰腎経（2）							
7	手の陽明大腸経（1）	23	手の厥陰心包経							
8	手の陽明大腸経（2）	24	手の少陽三焦経（1）							
9	足の陽明胃経（1）	25	手の少陽三焦経（2）							
10	足の陽明胃経（2）	26	足の少陽胆経（1）							
11	足の陽明胃経（3）	27	足の少陽胆経（2）							
12	足の太陰脾経（1）	28	足の厥陰肝経・奇穴							
13	足の太陰脾経（2）	29	過去問演習							
14	手の少陰心経	30	過去問演習							
15	単位認定試験（前期）	31	単位認定試験（後期）							
16	手の太陽小腸経（1）	32	過去問演習							
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）										
					担当講師	島田光朗				

科目	東洋医学総合論（あはき史含む）		必修	履修 学年	1	授業 の 方法	講義	（単位 数） 時間 数	32（2）
目 標	東洋医学の基礎的な理論から東洋医学における人体のとらえ方や自然界との関わり合いを知るとともに、東洋医学的な人体の構造や機能から病証・病機を理解する。								
内 容									
1	陰陽学説	人体における陰陽							
2	五行学説	人体における五行							
3	精・気血・津液	精・気・血・津液の生理や病理							
4	五神・七情	五神や七情の生理や病理							
5	肝	肝の生理や病理							
6	心	心の生理や病理							
7	脾	脾の生理や病理							
8	肺	肺の生理や病理							
9	郊外授業	ボランティア							
10	郊外授業	ボランティア							
11	郊外授業	ボランティア							
12	郊外授業	ボランティア							
13	腎	腎の生理や病理							
14	六腑	六腑の生理や病理							
15	総括	総括							
16	効果判定								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
新版 東洋医学概論									
						担当講師	内田舜		